

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	愛知県
推進地域名 (再委託先)	豊田市

## 1 事業推進の体制

実践中心校	豊田市立小中学校
協力校	愛知県立豊田東高等学校、愛知県立加茂丘高等学校
関係機関	豊田市健康部健康政策課、産業部農政課 他

## 2 各都道府県教育委員会の取組

### (1) 食育の方針（取組内容）

- 「学校食育推進検討委員会」を設置し、様々な立場からの意見を集約し、本事業の円滑な実施を図る。また、その下部組織として「学校食育資料作成委員会」を置き、「学校食育啓発資料<高校生版>」及び指導事例の作成を目指す。

### (2) 実践推進地域への指導・支援内容等

事業を開始するに当たって、6月に第1回学校食育推進検討委員会を開催し、推進モデル地域である豊田市に対して、研究の方向性や推進組織のあり方などについて、具申した。  
また、市内保護者向けのリーフレットや実績報告書の作成について、随時助言した。  
さらに、2月に第2回学校食育推進検討委員会を開催し、本年度の成果を踏まえて推進モデル地域における今後の取組の方向性などについて検討した。

## 3 具体的な取組等について

テーマ1	市町村教育委員会を主体とした食育の推進・拡充の取組																								
評価指標	栄養教諭が関わった食育指導の実践校数																								
効果	<p>1 食育の重要性の高まり</p> <p>全学校（小学校74校、中学校27校）に食育推進者を位置づけ、学校経営案にも明記することにしたため、学校での食育推進の意識が高まった。全学校で、食育にかかわる取組を、学校ごとの工夫を凝らしたことで実践校数が増加した。</p> <p>また、保健給食課・健康政策課・農政課・スポーツ課との連携によって、食育の取組に幅が出てきた。そして、その様子は、各報道機関でも多数取り上げられ、学校での取組に積極的になる気風が表われることとなったと考える。</p> <p>食育推進を「行わなければならない」ではなく、「行くと成果が上がり、児童生徒の生活にいい影響を与える」と考え、単発ではなく、学校経営案、年間指導計画に確実に位置づけていく学校が増えてきた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>小学校の取組</p> <table border="1"> <caption>小学校の取組</caption> <thead> <tr> <th>取組</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>80</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>栄養教諭が関わった学校</td> <td>85</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>関わっていない学校</td> <td>65</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>中学校の取組</p> <table border="1"> <caption>中学校の取組</caption> <thead> <tr> <th>取組</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>75</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>栄養教諭が関わった学校</td> <td>80</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>関わっていない学校</td> <td>60</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <p>2 栄養教諭の力量向上</p> <p>若手の栄養教諭が積極的に研究授業、指導案づくりに参加し、ベテラン栄養教諭がそれを支えてきた。その成果として、栄養教諭同士の連携が強まり、教材、細案の共有などが行われ、授業におけるスキルアップが図られた。</p> <p>学校においても「栄養教諭の参加がありがたい」という声が多く届くようになった。栄養教諭にとって、学校の中で重要な教育活動に携わっているという自覚</p>	取組	平成24年度	平成25年度	全体	80	90	栄養教諭が関わった学校	85	90	関わっていない学校	65	75	取組	平成24年度	平成25年度	全体	75	85	栄養教諭が関わった学校	80	85	関わっていない学校	60	75
取組	平成24年度	平成25年度																							
全体	80	90																							
栄養教諭が関わった学校	85	90																							
関わっていない学校	65	75																							
取組	平成24年度	平成25年度																							
全体	75	85																							
栄養教諭が関わった学校	80	85																							
関わっていない学校	60	75																							

は、さらなる意欲を高めるものとなった。実践を通して、栄養教諭の存在価値が高まり、今後の食育推進の要となることが認知されたと考える。

**(取組状況)**

豊田市教育委員会での「栄養教諭を中心に小・中・高へと継続した食育の推進」をテーマとした具体的な取組は、次のとおりである。

○ 実践の概要

豊田市では、「子供」「地産地食(消)」「健康」の3つの視点により自らの健康を意識した食生活を営むことができることをめざし、平成20年3月に「豊田市食育推進計画」を策定し、「豊田市学校食育推進委員会」を設置した。平成21年3月には「豊田市食育プラン」を策定し、各学校での食育を推進してきた。

1 全校での栄養教諭による食育を目指して

市内には小中学校合わせて101校あり、児童生徒数は3万7千人で、8つの共同調理場と2つの単独調理場から給食を提供している。現在20名の栄養教諭・学校栄養職員が配置されているが、全小中学校、全クラスを指導することが非常に難しい現状だった。どの地域の児童生徒にも、栄養教諭等による食に関する指導を行きわたらせるために、平成25年度から指導対象学年を決め、統一した指導内容で実施計画を立てた。児童生徒の発達段階や他教科と関連付けることで効果的な指導ができるであろうと考え、学校給食を教材とした食に関する指導を小学校1・2・4年、中学校で行うこととした。どの学校でもどの担任でもすぐ指導ができるような指導内容を練り上げ、食に関する指導を積極的に進めた。

2 栄養教諭の専門性を生かした教材等の開発

市内の児童生徒や保護者に向け、学校給食を通して食の指導を行いたいと考え、毎月配布している献立表の中に工夫を凝らした記事を載せたり、健康や生活と食の密接な関係や地産地消等について知らせたりしている。また、毎日の給食の紹介文を発信し、各学校で給食の時間に放送した。また、食材や地産地消への理解を深めるために、「豊田市地場産物マップ」等、児童生徒の興味関心に合わせた教材作りも積極的に進めている。

3 生涯を通じた地域ぐるみの食育

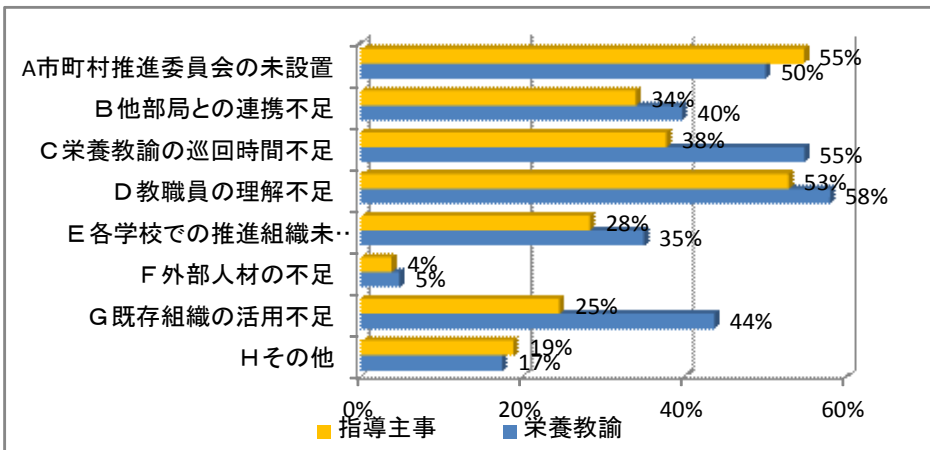
小中学校では、栄養教諭等が中心となり、学校給食を生きた教材として食育を進めている。また、幼稚園・こども園・高等学校に対しては健康政策課が中心となって進めた。

現在は、農政課・スポーツ課などとも連携を進めている。学校教育課が中心となり、互いに情報提供を行ったり、それぞれが行っている食育の啓発のためのイベントや講演会、研究授業等を紹介したり、参加を促進したりして、協力をしながら進めていく体制づくりを行った。生涯を通して生きる力をはぐくむことができるように、園や学校・地域が一体となり食育の推進をしている。

**テーマ2 学校における食育の全県的な充実を図る取組（「横への広がり」）**

**評価指標** 市町村における食育推進組織の設置率等

**効果** 学校食育推進研究協議会では、市町村食育担当者が先進地域での実践発表を聞いたり近隣市町村との情報交換をしたりすることによって、下のグラフにあるように、それぞれの市町村が抱える食育推進の上での課題が明確になった。参加者アンケートにも多く見られたように、市町村食育担当者と栄養教諭とが食育推進のための具体的施策を話し合う貴重な機会となり、来年度の市町村教育委員会での推進体制や校内組織の構築に向けての取組が進められることに期待が高まっている。



(取組状況)

【学校食育推進研究協議会の開催】 185名参加（市町村担当者52名、栄養教諭133名）

1 趣旨

学校における食育は、学校教育活動全体を通じて推進することが必要であり、校内や関係機関との連携協力を図りながら、全校体制を整備していくことが望まれている。

そこで、各市町村における学校食育の支援体制の確立や食育推進の要となる栄養教諭の環境整備に向けて、今日的課題を追究し、課題解決に向けて協議しながら各学校に食育を広げていくことを目的とした研修会を開催する。

2 日時・会場

平成25年12月13日（金）午後1時～4時10分 ウィルあいち

3 内容

(1) パネル・ディスカッション

- ・ 市町村教委を主体とした取組
- ・ 地域研究会を主体とした取組

(2) グループ協議

- ・ 市町村単位での支援体制づくりについて
- ・ 市町村全体での指導・研究について

研究協議会の趣旨説明をした後、過去・現在の本事業推進モデル地域を受託した3市教委の担当者、及び地域で研究会活動に取り組んでいる栄養教諭によるパネル・ディスカッションを実施した。その中で、各市・各地区の実情に応じた様々な取組についての紹介がなされた。

その後、パネル・ディスカッションでの話し合いなどを基に、市町村担当者と市町村内在籍の栄養教諭によるグループ協議を実施した。少人数の町村においては、近隣の町村と合同で、情報交換をしながら協議を行った。話し合いの主な内容は下のとおりである。

- ・ 推進組織の新規立ち上げが難しいため、既存組織等の場を有効に活用する。
- ・ 現存の組織の構成員を変更し、より食育を推進できるように見直す。
- ・ 栄養教諭が中心となって、市内統一の年間指導計画を作成して配付し、市内全校が同一步調で食育を進める。
- ・ 学校給食を実施する他課との連携をさらに強めて、食育の推進を図る。
- ・ 巡回時間の不足を補うために、豊田市のように決まった学年で指導するカリキュラムを作成したり、担任が定期的に指導する指導案を作成したりする。

テーマ3 学校における食育の全県的な充実を図る取組（「縦へのつながり」）

評価指標 県立高等学校における食に関する指導状況

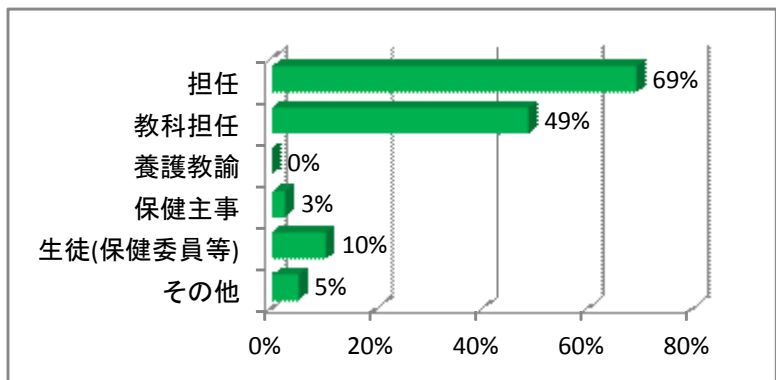
効果

高等学校での食育については、家庭・保健体育等の教科指導を中心に進められていたが、今年度、「学校食育啓発資料〈高校生版〉」を配付したことで、下のグラフのように、教科担任以外の教員が食育に触れる機会ともなった。

活用状況の調査結果からは、「有意義な内容だった」「食生活を振り返るきっかけとなった」等、資料に対する肯定的な評価があった。

また、集約した意見には、「知識だけでなく実践行動につながる日頃の継続指導の大切さ」等があり、生徒に日常的に接し校外での生活を把握している学級担任が、高校での食育に参画することに大きな意義があると考えた。

また、生徒委員会活動に関連付けて活用したり保健部の取組と関連付けて活用したりするなど、学校独自の取組とリンクさせて活用する事例も見られた。



(取組状況)

【「愛知県学校食育啓発資料〈高校生版〉」の作成】

1 趣旨

愛知県では、小中学生と比べて高校生の朝食摂取率が低く、食習慣の乱れも課題となって

いる。そこで、小中学校における食育の実践を踏まえ、望ましい食生活を実践していく能力を身に付けるための高校生向けの啓発資料を作成し、高校における食育の推進を図る。

2 内容 ※詳細については、愛知県教育委員会HP参照

(1) 1 ページ:

- ・ タイトル「食生活大作戦～未来につながる私たちの食生活～賢い食べ方を攻略しよう」
- ・ チェック表 自分の食生活の課題のチェック

(2) 2 ページ: ・ 自分の間食の摂り方の振り返り ・ 上手な間食の摂り方

(3) 3 ページ: ・ ダイエットの必要性 ・ スポーツ時の効果的な間食(練習前後)

(4) 4 ページ: ・ バランスのよい朝ごはん ・ 小中学校での食に関する指導内容

3 活用事例(指導案)及びその他の資料

(1) 指導案3種

- ・ 「バランスのよい朝食習慣を身に付けよう」(15分)
- ・ 「未来につながる自分たちの食生活を考えよう」(50分、2種)

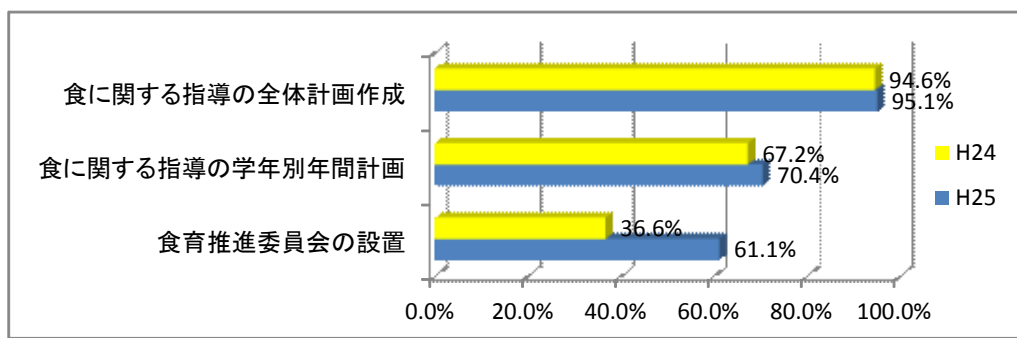
(2) その他の資料

- ① ワークシート2種
- ② 補足資料2種(スポーツ、ダイエット)

4 配布対象

- ・ 県立高等学校(全日、夜間)、特別支援学校高等部 全生徒
- ・ 小中学校・共同調理場・市町村教育委員会 各1部

テーマ1～3に共通する取組

評価指標	校内推進体制の進捗状況												
効果	<p>「学校食育推進者養成講座の開催」等その他の取組</p> <p>学校食育推進者養成講座、学校給食研究大会や小中学校長会給食委員会等、継続的な啓発活動を行ってきた。下記グラフにあるように、全体計画・学年別年間計画の作成については、着実に増加している。推進委員会の設置については、既存組織の活用を研修の場や県校長会の場で積極的に啓発した結果、25ポイント増の大幅な改善につながった。</p>  <table border="1"> <caption>進捗状況の比較 (H24 vs H25)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H24 (%)</th> <th>H25 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食に関する指導の全体計画作成</td> <td>94.6%</td> <td>95.1%</td> </tr> <tr> <td>食に関する指導の学年別年間計画</td> <td>67.2%</td> <td>70.4%</td> </tr> <tr> <td>食育推進委員会の設置</td> <td>36.6%</td> <td>61.1%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	H24 (%)	H25 (%)	食に関する指導の全体計画作成	94.6%	95.1%	食に関する指導の学年別年間計画	67.2%	70.4%	食育推進委員会の設置	36.6%	61.1%
項目	H24 (%)	H25 (%)											
食に関する指導の全体計画作成	94.6%	95.1%											
食に関する指導の学年別年間計画	67.2%	70.4%											
食育推進委員会の設置	36.6%	61.1%											

(取組状況)

【学校食育推進者養成講座の開催】 423名参加

1 趣旨

学校食育について実践的に活用できる専門研修を実施し、教職員の指導力向上を図るとともに、学校食育推進の核となる指導者の育成を図る。

2 対象者

- ・ 県内小中学校管理職・食育推進者
- ・ 参加を希望する栄養教諭・学校栄養職員
- ・ 参加を希望する県立高等学校及び特別支援学校の食育担当教員

3 日時・会場 平成25年8月23日(金) 午後1時30分～4時40分 ウィルあいち

4 内容

- (1) 開会行事・趣旨説明
- (2) 学校給食優良校実践発表(3校)
- (3) 講義「学校における食育の重要性」 女子栄養大学短期大学部 教授 金田雅代氏
- (4) 分科会
  - ・ 管理職部会
  - ・ 小中学校部会(9)
  - ・ 県立学校部会

本年度は、この講座に小中学校管理職の積極的な参加を促し、96名の参加者があった。管理職の分科会では校内組織の設置や年間指導計画作成の重要性について説明し、早期の取組を要請した。多忙化により校内組織の構築が難しい場合には既存組織を効果的に活用したり、年間指導計

画については県教育委員会作成の「学校食育推進の手引き」の例示を有効に活用して作成したりすることを紹介した。

さらに、特別支援学校教職員に加えて高等学校教職員の参加も要請し、19名の参加があった。県立学校の分科会において義務教育終了後の食に関する指導の重要性についての講義を行った。

#### 【学校給食研究大会の開催】 582名参加

##### 1 趣旨

学校給食と食育の意義や役割についての認識を深め、その指導と管理運営の改善充実を図るため、県内先進校等の研究成果を聞き、当面する諸問題について研究する。

##### 2 主題 「たくましく、生きる力を育む学校給食と学校における食育の推進」

##### 3 日時・会場 平成26年1月24日（金）午後1時～4時15分 ウィルあいち

##### 4 内容 表彰、実践発表、講演

文部科学大臣表彰を受賞した先進校が、校内推進委員会を中心として家庭や地域と連携した様々な取組を参加者に発表した。発表内容は、①教科と連携した食に関する指導の実践、②幼小連携・家庭との連携の推進、③栄養教諭が立案し担任が行う「ミニ食育指導」、④学校・家庭の双方向の情報発信、⑤地場産物を活用した加工品開発等、食育を推進する上で大変参考となる実践発表となった。

#### 【小中学校長会給食委員会での資料提供・依頼】

小中学校長会給食委員会において、愛知県や国の食育の取組や県内の食育の進捗状況・各種調査結果等について情報提供した。

さらに、校内組織の設置や年間指導計画作成の重要性について説明した。その上で、来年度の校内推進体制の整備に向けて、「食育推進の法的根拠」や「既存組織を活用した食育の推進」「指導計画作成の進め方」等を解説した資料の各地区での配付及び食育推進についての啓発を依頼した。また、学年ごとの年間指導計画枠をデータで配信した。

## 4 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

本県では、一昨年に「学校食育推進の手引」、昨年に「同く実践編」を作成、配布するなど、本事業を通して、栄養教諭を中核に据えた食育の推進を図ってきた。

同時に、児童生徒、保護者、教員を対象とした行事や研修会を、県教育委員会が主催し、県内全域での食育の推進を並行して行ってきた。特に本年度は、管理職への啓発に力点を置いたことで、校内推進組織設置や指導計画作成の面で進捗が見られた。

今後も、栄養教諭の専門性を生かしながら、児童生徒、保護者、教員を対象とした事業を実施することで、県内全域にバランスよく食育を拡充していきたい。

## 5 各都道府県教育委員会における事業成果の活用について

推進モデル地域である豊田市の取組を「推進地域実践報告書」として、県内市町村教育委員会や小中学校、共同調理場などに知らせることができた。本県では、共同調理場方式が多いため、豊田市の取組は大変参考になると考えている。

## 6 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 本県は、豊田市にみられるような大規模調理場が多だけでなく、市町村合併に伴い小中規模の共同調理場が統廃合され、大規模化する傾向にある。それにより、栄養教諭の配置割合は増加しているものの、栄養教諭・学校栄養職員の配置数自体が減少する傾向にある。今後は、県教育委員会として栄養教諭の配置拡大を進めていくと同時に、豊田市の実践にあったような、限られた栄養教諭で効果的に食に関する指導を進めていく指導方法を構築していくことが急務である。
- 本年度、「学校食育啓発資料〈高校生版〉」及び指導事例を作成し、県内の全高校生に配布し各校で指導を行った。今後は、高校生の食の実態を把握するために、さらに詳細な調査を行うことが必要である。また、教科指導中心に食に関する指導が進められており、学校全体での取り組んでいる高校は多くない。学校全体としての取組が進むように、管理職を含む多くの教員への啓発を進めるために、県教育委員会主催の研修会を充実させていく必要がある。